

平成 27 年度 第 3 回 白井市健康づくり推進協議会

日時：平成28年 1 月22日（金） 13:30～14:30

会場：保健福祉センター 2 階 検診室

<要点会議録>

【次第】

1. 開 会
 2. 会長あいさつ
 3. 議 題
 - (1) 第2次しろい健康プラン（案）について
 - (2) 第2次しろい健康プラン概要版（案）について
 - (3) 平成28年度保健衛生事業（案）について
 - (4) その他
 4. 閉 会
-

【出席者】

島田会長、吉岡副会長、長嶺委員、呂林委員、石田委員、河本委員、
北島委員、菅森委員、中野委員、金子委員、蛭田委員
事務局：黒澤課長、捧、矢野（幸）、宇田川、石田

【欠席者】石丸専門委員

【傍聴者】0人

1. 開 会

※会議運営の説明

白井市審議会等の会議の公開に関する指針の規定に基づき進行し、次の4点について承認を得る。

- 1 会議は公開が原則で、議題の全てについて公開する。
- 2 会議の開催は、事前に公表する。
- 3 先着順に5名まで傍聴できることとする。
- 4 審議概要を作成し公表する。審議概要については、発言者の氏名は伏せて作成し、正確を期するため録音を行う。

※白井市附属機関条例第6条第2項の規定により、委員の出席数が過半数であるため、会議が成立する。

※配布資料の確認

会議次第、資料1～資料6

2. 会長あいさつ

島田会長よりあいさつ。

3. 議 題（進行：会長）

（1）第2次しろい健康プラン（案）について

事務局より、第2次しろい健康プラン（案）について説明。

（質疑応答等）

会 長

パブリックコメントは、文書か何かで配られたのか。

事務局

この案を、ホームページと、各公民館、出先の機関などに設置し、ご意見があればご記入いただいてポストに入れていただくという方法で実施した。

会 長

それで、格別問題になるような意見がなかったということである。

第2次しろい健康プラン（案）とパブリックコメントについて、ほかに何か意見、質問はあるか。特になければ、承認ということによいか。

～ 承認 ～

（2）第2次しろい健康プラン概要版（案）について

事務局より、第2次しろい健康プラン概要版（案）について説明。

（質疑応答等）

会 長

事務局の説明で、何か質問、意見はあるか。特になければ、承認ということによいか。

～ 承認 ～

（3）平成28年度保健衛生事業（案）について

事務局より、平成28年度保健衛生事業（案）について説明。

（質疑応答等）

委 員

健康増進計画の大腸がん検診についてである。変更ということで、未受診者に対する受診勧奨通知を再送されるということが説明された。計画書では重点事業となっているので、大腸がん検診についていろいろな取り組みがされるのではないかと想像

した。未受診者への再通知以外に、大腸がん検診の受診率を上げるための取り組みとしてどういうことをするのか。

それから、年代別とか地区別とかで、受診率の高い低いなど、傾向があるのか。

また、地域の健康づくりについてだが、新規事業で健康づくり講座を3つの小学校区で実施されるということだが、その講座の内容には、大腸がん検診に対しての受診勧奨を含めた啓発なども含まれるのか。

事務局

受診率のアップの件については、大腸がん検診以外も含めてだが、申し込みの利便性、周知のPR方法、検診を受診する際の利便性、その3つの対策を講じている。

申し込みの利便性については、2年前までの検診の受診履歴のある人に、直接検診の通知を発送させていただき、継続的に受診をしやすいようにしている。また、新規の受診者を増やすために、10歳あるいは5歳刻みの特定の年齢の方へ、往復はがきで申し込みが受けられるようにもしている。さらに、各出先機関でも申し込みが受けられたり、携帯電話やパソコンなどの電子申請の方法も取り入れている。

周知の方法については、市内の保育園、幼稚園等にポスターを掲示したり、乳幼児健診等の際にあわせて啓発をしている。

受診する際の利便性については、働いている方が受診しやすいよう、土日の検診を全ての検診で行っている。また、子宮がん検診と乳がん検診などでは保育を設け、大腸がん検診は、胃がん検診と同時に実施することで受診率向上を図っている。

今回の取り組みの再勧奨については、国の補助事業の力を借り、がん検診推進事業という内容で今年度補正予算をとり、はがきで意向調査を実施する予定でいる。それをもって、未受診者には、再度勧奨させていただく予定でいる。

委員

受診の働きかけというところで、今はすべての保健事業に共通するのかもしれないが、利用する人は検診を継続して受けているが、一度も受診しない人は全くしないように、極端に分かれているような傾向にあると思う。未受診の人はやはり関心がなかったり、受ける気持ちが低く、そういった人に対しての再通知には、通知の内容とか、気持ちを動かすような働きかけが必要だと思う。再通知をした結果については、評価して、来年度に報告していただければと思う。

会長

大腸がん検診の話が出たついでだが、前立腺がんのPSA検査は入ったのか。

事務局

前立腺がんのPSA検査については、市の医師会の先生方と昨年度ずっと協議と調整をさせていただいた。ただ、予算の状況が厳しく、平成28年度から実施を予定していたが延期しようと考えている。

会 長

子どもの定期予防接種事業は、2種混合2期を個別接種に変更したということだが、こちらは集団との2本立てにはならないのか。これもやはり予算の問題があるのか。

事務局

今は、小学校6年生を対象に事業を行っているが、学校の集団接種ではいろいろな問題等もあり、予防接種法の中でも基本的には個別接種が主体になっている。子どもの体調が悪いときや、接種後のアナフィラキシーショック等の対応も難しい。やはり子どもの体調をよく知っているかかりつけ医で接種してもらうのが、一番のやり方ではないかということである。会長がいわれた併用は考えておらず、全て個別接種対応としている。

会 長

後期高齢者歯科健診事業で、生涯を通じた口腔機能の維持改善のため76歳の者を対象にしたとあるが、76歳を対象にしたのには何か根拠があるのか。

事務局

後期高齢者は75歳以上であるが、後期高齢者の広域連合のほうで、対象者を76歳に絞っており、広域連合への委託で実施するためである。

会 長

(仮称) 歯科口腔保健推進ボランティア育成は、どういう人を念頭に置いているのか。例えば、歯科医とか歯科衛生士の場合は、育成ではなく、委嘱する形になると思うが、ボランティアというのは、ほかのところから人材を求めるとのことか。

事務局

(仮称) 歯科口腔保健推進ボランティア育成については、まず市民の方に歯科口腔保健を一緒に推進してほしいというコンセプトを持っている。そのため、市民のボランティアを育成するという形でやっていきたいと考えている。関心がある方がキーマンとすると、本日参加いただいている関係団体の方にも力添えをいただきたいと思っているが、6月に行った講演会参加者にも意識が高い方がいる。講習会として、この3月に開催するので、志の高い市民の方にぜひ歯科口腔保健のボランティアをお願いしたいと考えている。

委 員

マタニティ&ベビー向け講座では、リニューアルをするという表現をしている。現在、出産年齢がどんどん上がっていくなかで、その講座のなかに、高年齢の方にも安心して産めるような体制を整えていくということを盛り込んでいく考えはあるか。

事務局

特に高年齢という形に絞っての対応はないが、現実的に高年齢の出産の方が増えている。そういう方も含めて、マタニティカフェとか、プレパパママスクールなどのなかで、妊婦さんが快適な妊娠・出産のための必要なセルフケアの知識を持っていただくとか、育児に関する必要な知識とか技術を身につけていただくほか、講座等によって仲間づくりをしていただき、妊婦の孤立を防ごうとしている。また、男性の育児参加ということで、プレパパママという形でやっている。今回は、新たに胎動体験器具を購入し、男性が妊婦の体験をすることで、安心して出産、育児ができるような体制をとっていくようにしたいと考えている。

委員

今の内容で方向性としてはわかったが、やはり世の中の傾向は、結婚の年齢が上がっていて、なおかつ出産の年齢も上がっている。そんななかで、やはり担当課のほうでもそういったところについてご一考願いたいという要望である。

委員

歯科の保健計画に、妊婦歯科健診が実現されたことは、非常に喜ばしいと思う。健康課をはじめ、市議会の先生方も少ない予算のなか、本当にありがたいと思う。

後期高齢者歯科健診事業だが、これは県単位の事業で、おそらく千葉県歯科医師会と広域連合との契約関係における収支の形になると思う。

あと、全体的な感想だが、歯科に関しての計画は非常によくできており、どこに行っても胸を張れると思っている。これから人口が減り、地方都市は消滅するという話もでていくぐらいなので、市町村単位での目に見えない競争がこれから起きてくるのではないかと考えている。そういう点では、住みやすいまちにみんな移動してくると思うので、立派な歯科の計画を立てていただき、長い目で見たときには白井市の発展に大きく資すると思っている。

事務局

先ほど、委員から質問のあった大腸がんの受診率の地区別の傾向についてであるが、地域別の傾向というのは、今のところは把握できていないという状況である。

受診率に関して申し上げますと、市全体の受診率を出す場合には、対象年齢すべてを対象者とするのではなくて、社会保険加入者を除くなど、国が出している算定基準がある。それを推定対象者数といい、それをもとに受診率を出している。地区別に当てはめるということが非常に厳しく、できていない。地区ごとの受診者数であれば、住所で小学校区に分けて出すことはできるが、分析は今後の課題であると考えている。

例えば、保健所や県で、市でも地域別に受診率を出しているケースなどがあったなら教えていただき、私どもも努力してやってみたいと考えている。市の中でも検診に来る人たちが多い地域、少ない地域というのはあると考えられるので、分析をしたいと思う。

今回、大腸がんの再勧奨ということで重点的取組に上げており、それ以外の事業としては先ほど健康課長から話したとおりである。健康課では、55歳の方のがん検診の

受診勧奨ということで、その年代の女性全員と国民健康保険に加入している男性を対象に保健師が家庭訪問し、受診状況を確認して、受けてない場合には勧奨をしている。その活動のなかで印象的だった話を一つさせていただく。55歳の女性が、「自分の家族は誰も検診を受けていないので、自分から検診を受けるとは言いにくい。夫は検診を受けないし、姑も検診を受けないなかで、自分だけががん検診に行くわけにはいかない』と話をしていた。その方の声を聞いて、地域ぐるみで検診を受けに行こうという意識を醸成することについて、今後の地区活動の取り組みの中に盛り込みたいと考えた。

また、先ほど委員から、がん検診の啓発を地域の健康づくりのなかに盛り込んでいるのかという質問があった。健康課は、検診、健康相談、健康教育など、事業が多い課である。その間を縫っての地区活動で、なかなか時間はとれないが、出向いた回数が多い地域と少ない地域のばらつきはあるものの、機会があったときには、がん予防の啓発をしていることが多々あることを報告させていただく。

会 長

ほかにご意見は。なければ、議題3は承認いただいたということでよいか。

～ 承認 ～

(4) その他

事務局より、今後のスケジュールについて説明。

- ・年度内に計画書と概要版を作成し、関係者、市民の皆様に配布する。
- ・第2回第2次しろい健康プラン策定に関する講習会を3月26日に開催する。
- ・平成28年度の白井市健康づくり推進協議会は10月に開催を予定している。

4. 閉 会

以上